



遊びを通して、心と身体を育てる。 時代を超えて受け継がれる、創設者の理念。

子どもの自由な意思を大切に、豊かな個性を育てていく「誘導」の理念。

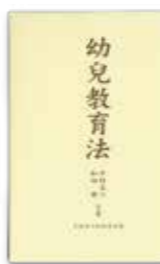
本校創設者・和田實先生の主張は、
幼児教育の原点として脈々として受け継がれ、
本校の教育内容にも反映されています。

本校創設者和田實(1876~1954)は、ルソー、ペスタロッチ、フレーベルと受け継がれてきた「自然主義教育」を基本に、明治41(1908)年『幼児教育法』を著し、「誘導と感化」の保育理論を提唱しました。和田實は、日本で初めて「幼児教育」という言葉を使い、教育学の体系に位置づけて、科学的な視点から幼児教育に取り組んだ日本の幼児教育の先駆者。幼児の生活は「休養と衣食住のほかはすべて、自由な自己活動の発露たる遊び」であると述べています。幼児教育とは、子どもたちを存分に遊ばせることによって実現していくものであり、子どもの自由な発想を伸ばし、個性を活かし、大きく育てていくことが目的。そして、知識や技能を高める前に、心や身体の機能を高めることが大切だと主張しました。この考え方は和田實が著作を出してから100年を超えた今も、幼児教育の原点として、変わることなく受け継がれています。



和田実学園創設者
和田 實

「幼児より遊びを奪うな、存分に遊ばしめよ。」
「みだりに干渉するな、静かに之を看護せよ。」
「遊ぶ子供に手をつけるな、目を離すな。」
「保育者は前を見ている時も、後ろにも目をもて。」
「保育は指導ではなく、誘導するをもって本領とする。」
和田 實



幼児教育は、この本が原点!
和田實の「幼児教育法」が
現代語になって刊行されています。

本書は明治41年に発売された「幼児教育法」を昭和41年に復刻版として発行し、さらに現代語訳版として復刊された書。一部には現代の世相に合わない記述はあるものの、幼児期からの教育の重要性が叫ばれる今日の情勢において、少しも新鮮さを失うことなく、幼児教育の全てに適用できる原則を打ち出す内容になっています。

沿革

- 1915 大正4 私立目白幼稚園開園
- 1930 昭和5 第二目白幼稚園開園
目白幼稚園保母養成所開校
- 1934 昭和9 東京目白保母学校と改称
- 1945 昭和20 戦災で校舎焼失、休校
- 1950 昭和25 東京教育専修学校と改称して再開
- 1951 昭和26 学校法人となり、法人名を目白保育学園と称す
教育免許法により、文部大臣の指定校となる
【幼稚園教諭2級普通免許状取得】
(現在、幼稚園教諭2種免許状)
- 1957 昭和32 第3代理事長 和田達夫が「目白鍵盤」を開発(音叉を使用した画期的なピアノ練習機)
完成と同時に「目白鍵盤」を使用して
ピアノ専攻授業開始
- 1958 昭和33 2年制となる
- 1968 昭和43 下落校舎3階まで落成
- 1969 昭和44 厚生大臣の指定校となる
【保母資格証明書取得】(現在は保育士証)
- 1976 昭和51 下落校舎5階まで増築、完成
東京教育専門学校と改称
- 1990 平成2 学校法人和田実学園と改称
創立60周年を迎える
- 1995 平成7 専門士の称号付与校となる
(幼稚園教諭・保母養成科)
- 1999 平成11 幼稚園教諭・保育士養成科に科名変更
2号館開設
- 2000 平成12 創立70周年を迎える
1・2号館での授業開始
- 2005 平成17 目白幼稚園 創立90周年
- 2009 平成21 新園舎・新校舎(目白本館)落成
- 2010 平成22 創立80周年を迎える
- 2011 平成23 和田實先生誕135周年記念事業を行う
- 2015 平成27 目白幼稚園 創立100周年
- 2020 令和2 創立90周年を迎える
- 2021 令和3 現在に到る

東京教育は、91年間、 幼児教育・保育者を養成してきました。